



文部科学省委託
令和2年度初等中等教職員国際交流事業

インド教職員招へいプログラム実施報告書



ACCU

Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

はじめに

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU, Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO）は、ユネスコの基本理念に基づき、多様な文化が尊重される平和で持続可能な社会の実現に資するため、アジア・太平洋の人々と協働し、文化と教育の分野において地域協力・交流活動を推進しています。

ACCU の教職員国際交流事業における日本のパートナー国は、2001 年から韓国、2002 年から中国、2015 年からタイ、2016 年からはインドが加わり、現在 4 ケ国と連携、東アジアから東南アジア、南アジアに交流国を広げています。開始当初より 2020 年現在までに、海外教職員は 4 ケ国合わせて 4,100 人以上、日本教職員は 1,100 人以上が海を渡り、教育現場が舞台の国際交流を通して、これらの国々の相互理解と友好の増進に大きく貢献してまいりました。

今年度、各国との交流プログラムは新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から、オンライン上での交流へと形を変えて実施し、国内外の教職員延べ 174 名にご参加いただき、日本への受け入れには 13 の教育委員会や学校にご協力いただきました。各国のカウンターパートと協働しながら、オンラインだからこそその取り組みを模索する中で生まれた新たなプログラムもあります。変化の激しい社会情勢の中においても、国際交流の重要性を再認識し、課題を見据えながら、よりよい事業に昇華させていくため、ACCU は今後も真摯に取り組んでまいります。

最後に、本事業の実施にあたって多大なるご支援とご協力をいただきました関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

2021 年 3 月

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

インド教職員招へいプログラム

プログラム概要

1 目的

本プログラムの目的は、プログラム中の活動を通じて、参加する教職員が相手国に対する理解を深めるとともにお互いに学び合い、相互理解と友好を促進することです。また、所属機関の代表として本プログラムに参加する教職員は、プログラム終了後には、自身の学びを教育現場において児童・生徒・教職員・地域住民等に伝え、国際理解教育、平和教育、ESD（持続可能な開発のための教育）、GCED（地球市民教育）等を含めた「持続可能な社会に向けた教育」を推進する担い手となることが期待されています。プログラムを通して交流する訪問先の教職員や児童・生徒はもとより、参加者間でもネットワークを構築・強化し、交流を継続する事で、ともに上記目的を達成することを目指します。

2 活動内容

ウェブ会議システムを活用し、以下の活動を行う。

- ・動画視聴による学校視察
- ・日本の教育制度、ESD や関連事項についての講義受講
- ・日本の教職員との意見交換
- ・日本の児童・生徒との交流授業

3 日程

日付	日程	通信拠点	活動
11月2日(月)、4日(水)、5日(木)のいずれか2日	第1～2日	東京都 (ACCU)	動画による情報提供 ・ワークショップ ・講義の視聴 ・学校紹介映像の視聴 ・インド教職員同士の意見交換
11月6日(金)、10日(火)のいずれか1日	第3日	山梨県 (北杜市)	北杜市立甲陵高等学校教職員とのオンライン意見交換会
11月20日(金)、24日(火)のいずれか1日	第4日		北杜市立甲陵高等学校生徒へのオンライン交流授業
11月29日(日)	第5日	東京都 (ACCU)	5周年記念日印教育交流会、閉会式

4 参加者数

初等中等教職員 16 名（CEE の職員 3 名を除く）

5 参加資格

- (1) 国際理解教育、平和教育、ESD、GCED 等の持続可能な社会に向けた教育に携わっている、または高い関心を持っており、帰国後はそれらの推進に寄与できる者
- (2) インドの初等中等教育またはノンフォーマル教育センターの教職員（教育行政官及び教育専門家を含む）であること
- (3) 英語での会話が可能であること
- (4) 自身でオンライン交流に必要な機材を用意し、操作ができること（パソコンが望ましい）
- (5) プログラムの全日程に参加が可能であること
- (6) インド国籍を有すること

※ 2016 年～ 2019 年の間にプログラムを通して訪日した教職員を歓迎します。

6 評価と報告

終了直後および終了 2 か月後

7 通訳

動画には英語字幕がつけられる。

意見交換会および交流授業は原則として日本語と英語間の逐次通訳が行われる。

●参加者リスト

No.	氏名	所属
A-01	Dhanam PK	PSGR Krishnammal Nursery and Primary School
A-02	Prasanna Kumar Ghosh	Anglo Bengali Intermediate College
A-03	Aparna Bhattacharjee	Nagaon Bengali Girls' High School
A-04	Rinku Das	Garden Reach Nut Bihari Das Girls High School
A-05	Mohammad Asif	Primary School Munimpur Bartara, Nindura
B-01	Richa Raturi	The Pine View School
B-02	Preeti Bala	Kendriya Vidyalaya Gomtinagar, Shift II
B-03	Swati Gupta	Nand Vidya Niketan
B-04	Ruma Mazumdar	Delhi Public School Jamnagar
B-05	Dipen Roy	Govt. Model School, Gopiballavpur-1
C-01	Poonam Dua	Delhi Public School, Greater Noida
C-02	N.M Shalika Banu	Fatima Central Senior Secondary School
C-03	Siddhartha Chakrabarti	Lee Collins High School
C-04	Swati Dave	SMT S G English Medium Primary School
C-05	Pabitra Kayal	Sundar Ban Janakalyan Sangha Vidyaniketan
C-06	Kavita S Shahi	City Montessori School- Gomtinagar Extension Branch, Lucknow
インド側運営	Himashree Bhattacharya	Centre for Environmental Education South
オブザーバー	Khushbu Shah	Centre for Environmental Education Ahmedabad
オブザーバー	Neeraj Pal	Centre for Environmental Education North

実施内容

第5回目となる今回のプログラムでは、インド全土より初等中等教育に携わる教職員および環境教育センター（CEE, Centre for Environment Education）の職員19名が参加しました。中央行政の方針を学んだ上で現場を視察し体系的に学べる従来のプログラムの良さを踏襲し、文部科学省によるビデオ講義、バーチャルビジットとして映像を使った学校訪問・地域探訪、北杜市立甲陵高等学校での教職員意見交換会と生徒との交流会、公募により集まった日本全国の教職員13名が参加する日印教育交流会を実施し、インドの参加者は3つのグループに分かれて、各参加者が5日間の活動に参加しました。甲陵高等学校での教職員交流会では、各グループがそれぞれ「SNS上のいじめ、誹謗中傷の現状と対策」、「大学受験、進路指導、生徒のキャリア形成」、「探究活動の取組」をテーマに経験を共有し意見を交わしました。これまで以上に、日印の教職員同士の語り合いを大切にしたプログラム編成を行い、最終日の閉会式ではインド教職員の代表から、COVID-19によってもたらされ表面化した困難を共に乗り越えるために、互いの経験を共有し、相互理解と連携を深めることの重要性が語られました。



インドの多様な宗教・生活習慣などについて授業を行う参加者



意見交換を行う日印の教職員

関係者コメント

北杜市立甲陵高等学校 教諭 増渕 大介

1. 今回のインド教職員とのオンライン交流について、全体的な感想をお書き下さい。印象に残った具体的な事例や発言内容等についても含めていただければ幸いです。

毎年、本校 SSH の海外科学研修プログラムの一環として、インド研修を実施してきましたが、COVID-19 の影響で、今年度は中止となりました。本プログラムも当初は実施できるのか不安でしたが、親身の御支援をいただき、無事に実施していただき、ありがとうございました。

Zoom での遠隔授業は本校にとって初めての取組でしたが、お陰様で当初の予想以上に、充実した内容となりました。

2. 今回のインド教職員とのオンライン交流によって児童・生徒さんが国際理解等に関して何か得られたものはありましたか。また、それはどのようなものか具体的にお答えください。

生徒との交流は、インドの教職員の方々が、懇切丁寧なパワーポイント等をご用意くださり、熱心に授業を展開してくださいました。お陰様で、生徒は、インドの文化や教育や学校の様子をつぶさに教わることができ、楽しく受講していました。

実施後アンケートで、生徒それぞれ感じ方は異なり、厳しい意見も散見されますが、総じて得られた学びは大きかったようです。

3. 今回のインド教職員とのオンライン交流によって先生方や学校が何か得られたものはありましたか。また、それはどのようなものか具体的にお答えください。

教員交流では、普段は実施できない海外の教員との交流を行うことができ、参加した教員は皆、有意義な時間を持てたことに感謝しております。交流を通して多くの教員が、国や文化が違ってても教育に向けた思いは万国共通である、との感想を持ちました。

4. プログラムの企画・運営で、苦労した点や困難だった事についてお書き下さい。

COVID-19 の影響で来日交流が不可となるなど、予定が大幅に変更となりました。そのため、直前まで実施方法・内容等の決定や把握、周知等が徹底できず、混乱が生じてしまいました。

5. 今後の交流プログラムの内容として、加えると良いと思われる活動がありましたらご提案下さい。

今回は、遠隔授業（Zoom）という制約があったため、授業後の交流の時間が持てませんでした。当初から、授業後の交流時間（授業後の質問や雑談の時間）を十分に確保しておくべきでした。

また、生徒からも日本や学校・クラス等の紹介をさせたほうがよかったです。

2018 年度



中国派遣



韓国派遣



インド招へい



タイ派遣

2019 年度



中国派遣

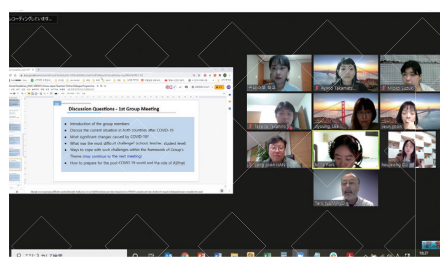


韓国派遣



タイ派遣

2020 年度



日韓教職員オンライン
対話プログラム



秋田県大館市の教育長
高橋 善之

我是秋田県大館市の教育長



インド招へい



タイ招へい

タイ招へい



Expert Meeting



中国招へい



韓国招へい



インド招へい



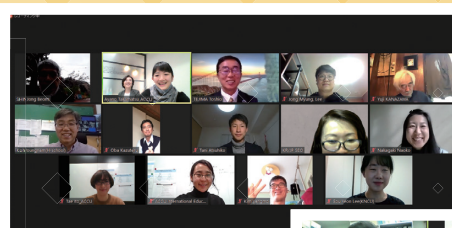
タイ招へい

中国招へい

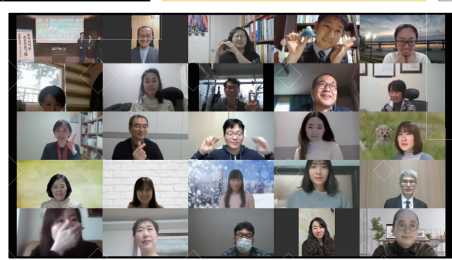
韓国招へいサブプログラム



中国とのオンラインによる交流



成果可視化委員会



韓国招へい

プログラム関係機関

●文部科学省

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, MEXT

文部科学省 大臣官房 国際課長	氷見谷 直紀
文部科学省 大臣官房国際課 国際戦略企画室 室長 (令和3年1月1日付 科学技術・学術政策局人材政策課 人材政策推進室長)	三輪 善英
文部科学省 大臣官房国際課 国際戦略企画室 室長補佐	松永 佳子
文部科学省 大臣官房国際課 国際戦略企画室 企画調査係 係長	小野 康平

●海外パートナー機関

- ・韓国ユネスコ国内委員会 (KNCU)
Korean National Commission for UNESCO, KNCU
- ・中国教育部
Ministry of Education of the People's Republic of China
- ・タイ教育省
Ministry of Education Thailand
- ・インド教育省
Ministry of Education Government of India
- ・国際NGOインド環境教育センター (CEE)
Centre for Environment Education, CEE

協力してくださった教育委員会や学校（2020 年度）

●韓国教職員招へいプログラム

長野県上田高等学校	校長	廣田 昌彦
日本体育大学柏高等学校	校長	氷海 正行
千葉市立稲毛高等学校	校長	佐藤 啓之
八千代市教育委員会	教育長	小林 伸夫

●中国教職員招へいプログラム

大館市教育委員会	教育長	高橋 善之
大館市立北陽中学校	校長	伊多波 卓美
大館市立花岡小学校	校長	伊藤 哲朗
大館市立南中学校	校長	駒木 聖子
大館市立南小学校	校長	御船 美喜雄

●タイ教職員招へいプログラム

名古屋経済大学市邨高等学校	校長	澁谷 有人
山形県立山形東高等学校	校長	須貝 英彦

●インド教職員招へいプログラム

北杜市教育委員会	教育長	堀内 正基
北杜市立甲陵高等学校	校長	小尾 和正

事業実施・運営機関

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-32-7F

Tel: 03-5577-2853 Fax: 03-5577-2854

Email: accu-exchange_ml@accu.or.jp

URL: <http://www.accu.or.jp>

田村 哲夫

Mr. TAMURA Tetsuo

理事長

進藤 由美

Ms. SHINDO Yumi

国際教育交流部長

高松 彩乃

Ms. TAKAMATSU Ayano

国際教育交流部プログラムスペシャリスト

伊藤 妙恵

Ms. ITO Tae

国際教育交流部プログラムスペシャリスト

岡野 晃一

Mr. OKANO Koichi

国際教育交流部プログラムスペシャリスト

天満 実嘉

Ms. TEMMA Mika

国際教育交流部プログラムオフィサー

小澤 華木

Ms. OZAWA Hanako

国際教育交流部プログラムオフィサー

文部科学省委託 令和2年度初等中等教職員国際交流事業 インド教職員招へいプログラム実施報告書

2021年3月

発行	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）
〒101-0051	
東京都千代田区神田神保町 1-32-7F	出版クラブビル
電話	(03)5577-2853
Email	accu-exchange_ml@accu.or.jp
URL	http://www.accu.or.jp
デザイン・印刷・製本	株式会社ワコー
編集	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター 国際教育交流部

© 2021 Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU)

[illegible]

[illegible]

